ふたなり
花粉症
ストーリー付き【28ページ】
ふたなり差分
（一人ふたなり、二人ふたなり）
それぞれ11枚ずつの差分
他差分
・精液ボテ(3段階) ・表情差分 ・等々

「ふたなり花粉症」それは名前の通り発症すると「ふたなり化」する花粉症。花粉とは植物の精子のようなもの。発症すれば花粉（精子）を飛ばし、子孫を残そうとする生殖本能に取り憑かれてしまう。

!?
双葉のふたなり雄しべもギンギンだな！けど今回お前が使うのは雌しべのほうだぜーっ！
ちょっと…！まさかこんな凶器入れる気!?
ギンッ
ギンッ
ギンッ
ギンッ
私だって普段からお前の凶器で子宮突かれてるんだ！私の立場を知ってもらういい機会だぜ！
ん！

オラッ!
んほっ!
ひぐっ
ボコォ!
ズリュリュ……ッ!

らめ…春美　堕ち…堕ちる…っ
と…友達らのに…　春美の赤ひゃん…
欲しくなっちゃう！
まら…　がくせーらのに…
春美の赤ひゃん…
産みたくなっひゃうよぉ！
パンパンッ！
パンパンッ！

ブッびゅうう―ッ!!
びゅっ♡
びゅ～っ♡
びゅ～っ♡
ズンッ♡
ズンッ♡
ぶぢゅ♡
びゅ～～っ♡
ビチャ!ビチャ!

始まる受粉作業。　スライムのような粘度の精液が、
春美の遺伝子がタップリと詰まった半液体が、双葉の雌しべに撃ちこまれる。
その圧倒的な情報量に双葉の子宮はあっという間に満たされキャパシティを超える。
それでもなお注がれ続ける精液に、双葉の子宮は水風船のように膨らんでいく。

あまりに完璧な種付けに双葉の本能が春美に堕ちる。
中出し、それはオスがメスに対して文字通り雌雄を決す行為。
春美の遺伝子マーキングによって双葉は本能で理解する。
自分は子を宿し産むの役目なのだと。
その証に、双葉の乳首からは妊娠前にもかかわらず母乳が滲み出る。
双葉の身体は母体としての準備をすでに始めていた。

うっめ！
せーえきうめぇ！
私も気持ちいいぜーッ！
これがオスの悦びなんだな！
びゅっ
びゅっ
びゅーーっ
びゅるーっ
子宮でゴキュ飲みとまんねぇえっ!!
安心しろ！ いくらでも射精してやる！
飲み放題だぜーッ！
ゴキュッ
ゴキュッ
びゅーーっ
びゅーーっ
ビキ！
ビキ！

初めて中出しする感覚に春美も浸っていた。
己の遺伝子をメスに刻み込むという、生物としての根源的な満足感を覚える。
女だが男としての悦びを噛みしめていた。

ぼへ…っぃ
やっと…
とまった…
ぴくっ
ぴくっ
タプッ
タプッ
ぼてっ♡
ミヂッ
ミヂッ

自分は甘かったと双葉は思い知らされた。
もう、好きとか恋とか人間らしいものは不要なのだ。
脳から思考能力を奪った子宮から湧き上がるのは、純粋な生殖本能。
孕むか、孕まないか、ただそれだけである。